

令和6年度 第6回伊予市行政評価委員会 会議録

日時：令和6年10月2日（水）18時25分～20時00分

場所：伊予市庁舎4階大会議室

出席者：倉澤生雄委員長、西田和真副委員長、牧本公明委員、戸田雅博委員、楠
本亜由美委員、山邊彰三委員

事務局：企画振興部企画政策課（向井功・北岡・向井英・曾我部）

傍聴者：なし

1 開会

会議の成立を確認した。

2 議事

（1）第5回会議録の確認

第5回委員会では、学校教育課所管の「幼稚園運営事務」を含む、3事業を審議した。

会議録については、各委員において発言内容等に誤りがないか確認を行った後、伊予市ホームページへ掲載する。

（2）外部評価結果の確認

（3）本委員会に対する提案、意見等

（4）次回の委員会日程

（5）その他

3 閉会

(2) 外部評価の結果

(事務局)

事前に配布した「外部評価結果(案)」をご覧いただきたい。前回委員会までに、外部評価を行った15件の事務事業の概要、そして、各委員の主な発言を要約して記載している。本日確認いただいた後、体裁を整え、市長への答申としたい。

外部評価結果の確認の進め方は、委員会各回で審議した事業(3、4事業)毎で区切って、そのまとまりで確認及び発言いただく形としたいがよろしいか。

〔「賛成」と呼ぶ者あり〕

それでは、各回のまとまりで説明する。

〔No.1集会所改修等事業からNo.4消防団運営事業までの4事業を読み上げる。脱字2か所あり。〕

ここまでで、お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

(委員長)

外部評価の欄に記載された内容は、実際に誰が見て、今後どのような取扱いになるのかを説明してもらいたい。

(事務局)

外部評価の過程を終えると、市長始め三役、所管部長で構成される行政評価経営者会議が開催される。この中で、今後の事務事業の方向性を決定していくのだが、本委員会での意見を参考に最終判断を協議、決定する。

経営者会議後に評価シートの全ての項目が入力され公開され、市民への説明責任を果たす役割を担っている。

(委員)

No.4消防団運営事業について。2行目に「成果指標に受賞者を設定」とあるが、「受賞者数」とした方がよい。

(事務局)

御指摘のとおり、「受賞者数」に修正する。

〔その他の指摘、追加意見なし。〕

〔続いて、No.5地域活力創造事業からNo.8児童センター運営事業の4事業を読み上げる。誤字1か所、脱字1か所あり。〕

ここまでで、お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

(委員)

No. 5 地域活力創造事業について。3行目に「首都圏」とあるが、東京周辺に限ったものではない。「大都市圏」等に表現を修正した方がよい。

No. 6 人権擁護委員事業について。1行目に「～について記載する」「記載内容を工夫する」とあるが、何に記載するかという記載対象を挙げておく方が市民には分かりやすいだろう。

(事務局)

御指摘のとおりである。No. 5 は制度を確認し適切な表現に修正、No. 6 は「評価シートに」を追記する。

〔その他の指摘、追加意見なし。〕

〔続いて、No. 9 (水道)水のたいせつ啓発事業からNo. 12総合計画等推進事業の4事業を読み上げる。誤字1か所、脱字1か所あり。〕

ここまでで、お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

(委員)

No. 9 (水道)水のたいせつ啓発事業について。4行目に「水の大切さを心から感じてもらうには、水に困ることが一番」とある。確かに外部評価においてコメントした記憶はあるが、あまりに直接的な表現となっている。もう少し柔らかい表現に変更してもらいたい。

No. 11 商工振興事業について。4行目の表現も話言葉としてはよいのだが、意見として記載するのであれば不適切に思う。

(委員)

No. 9 (水道)水のたいせつ啓発事業について。1行目の表現だと市内全ての小学生がそのような状況になっているように感じてしまう。少しずつ根付いているというような表現に改めるとよい。

〔追加意見なし。〕

(事務局)

〔続いて、No. 13 幼稚園運営事務からNo. 15 文化交流センター事業までの3事業を読み上げる。誤字1か所あり。〕

ここまでで、お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

(委員長)

No. 14 プロスポーツ地域振興事業について。6行目から9行目の内容を整理したい。まず、社会教育課がこの事業を所管するのがどうかという疑問があり、

所管についての検討が必要であるということ。次に、社会教育課が所管するのであれば、あれもこれもと目指すのではなく、目的は絞った方がよいということ。この2点を話の筋が通るように表現を改めてもらいたい。

(委員)

No.14プロスポーツ地域振興事業について。4行目に「地域貢献活動への参加人数が増えれば成功しているとは言えないため」とあるが、「地域貢献活動への参加人数が増えたからといって、事業が成功しているとは一概には言えないため」と修正した方が発言の趣旨に合う。変更をお願いしたい。

〔指摘、追加意見なし。〕

(事務局)

以上で、外部評価を行った15件の確認が終了した。

本日の確認資料について、御指摘の点は修正を施し、改めて提示する。その際、お気づきの点があれば、事務局までお知らせいただきたい。

(3) 本委員会に対する提案、意見等

(事務局)

本年度の委員会では、数年来取り組んできた事務事業評価の見直しについて、モデル実施を行った。抜本的な見直しであったため、うまくいかなかった点等もあり、御迷惑をおかけしてしまった。御容赦いただきたい。

第9期2年目の1年をとおしての意見・感想、また本年度の行政評価委員会をとおしての意見・感想など、各委員から発言いただきたい。第1回委員会時に説明した、新しい事務事業評価シートが①事務事業を正しく把握するのに十分な項目が備わっているか、②3年間の事業成果事業の成果評価を判断できる項目が備わっているか、③市民目線でわかりやすいシートの様式になっているかという視点についてもコメントを頂きたい。

(委員)

どのような様式を作成しても、全てを網羅することは難しい。事務局から提示された評価シートは決して悪くないと考えている。

前委員長が、伊予市は制度創設以来、行政評価に真剣に取り組んでいるという話をしていた。私もこれまでに他の自治体の取組を見てきたが、本当によくできていると思う。特に、事務局については、これまでの指摘に対して真摯に対応し、見直しにも取り組んでおり、非常に評価できる。

ただ、事務局以外の職員が行政評価そのものを十分に認識できているのかと

いう点には、多少の疑問がある。それは、所管課が外部評価の場に説明に来た際に、事業に関する十分な説明ができないというところに現れている。あまり言いたくはないが、ただやらされているという思いが、評価シート等から伝わってきてしまう。

昨年、コピーアンドペーストについて指摘した。それ自体が悪というわけではないが、その事業は何年にもわたり同じ記載内容になっていた。評価シートをただ作ればよいという考えや数字だけ変えておけばよいだろうという認識があるから、このようなことを平気で行うのだと思う。

今年度の委員会において、成果指標に必ず数値を設定する必要があるのかという指摘が多くあった。本来であれば、うまく設定できない場合はどうすればよいかという相談が所管課から事務局にあるべきで、それに基づいて見直していく方が私たちから言うよりもずっと大切である。なぜなら、作成している職員がうまく表現できないものを公開しても意味がないから。

評価シートを作成することが、どういうことなのかをもう一度考えてもらいたい。行政評価に関する条例に掲げられた目的を正しく理解できていれば、読んでも何も伝わってこないような評価シートが平然と提出されることはないだろう。事務事業を市民に理解してもらおうと本気で考えているのであれば、自ずと評価シートの記載内容も変わってくるはずである。

財政状況が厳しい中、限られた予算の中でどの事業を実施するのか。事業の必要性が高いのか低いのかを見極めた上で、本当に必要な事業を選択する。今までどおり事業を続けている限り、新たな事業を実施できないというわけにもいかない。事業の取捨選択をしていくためには厳格に判断していかざるを得ない状況になっている。厳しい財政状況にあり、そのための行政評価であることを市役所内部にしっかりと浸透させてもらいたい。

伊予市行政評価実施規程の第6条に評価手順がある。まず、事務事業の担当責任者が調書を作成し、所管課長等による第1次評価、所管部長等による第2次評価があり、所管部長等は必要に応じて所管課長等に聴き取り調査を行い、再評価を行わせることができるようになっている。外部評価に諮られる評価シートを見ると、市役所内で十分な確認ができているのか、評価が甘いのではないかと思うことが多々ある。記載内容が不十分であったり、評価に矛盾があったりすれば、当然差し戻して修正させるべきであり、そのままの状態で市民に公表される方が問題ではないかと思う。適切なチェック体制が整備されれば、不十分なまま提出する方がかえって時間と手間がかかるということで、しっかり作成しようという意識も向上するだろう。そういう意味で、チェックす

る職員の意識改革も合わせてしてもらいたい。

(委員)

行政評価自体が市民への説明責任を果たすためということは理解できるが、ホームページ等で公開されたものが果たして市民の何パーセントに見てもらえているのだろうか。市民の一人であるが、委員を引き受けるまでは、恥ずかしながら公開されていることも知らなかった。職員の皆さんが忙しい中で作成し、行政評価委員会委員も多くの時間を費やして資料を確認し意見も述べている。より多くの市民の目に触れるようにしてもらいたい。行政評価をとおして、市職員が予算を確保し工夫しながら事業を実施していることが市民に伝わればよい。

(委員)

幼稚園運営事務について。既に廃止が決まっている中で外部評価に諮る意味を感じなかった。せつかく外部の視点をを得る機会であるため、事務事業の選定については、検討が必要である。

昨年に比べて、事務事業評価の見直しが具体的になった。よい方向性に向かっていると思う。

(委員)

自治体が市民への説明責任を果たすため、事務事業評価シートのような形で公開しているのだろう。ただ、全市民が見ることは現実的にあり得ない。

ただ、私は、このシートはまちづくりにおけるコミュニケーションツールの一つになり得る可能性を秘めたものだと考えている。このシートを見れば、事業がどのような目的でどれほどの予算をかけて、どのような課題をもって実施されているか把握することができる。そういう点で、市議会議員の皆さんにもぜひ活用してもらいたい。

今後も引き続き、行政評価の取組が推進されることを期待している。

(委員)

評価シートは改善に改善を重ねており、非常に良くなっている。これを見れば、事務事業のおおよそを理解することができる。

ただ、一方で、これまでのシートには今後5年間の予算措置という項目があったが、新たなシートではなくなってしまった。伊予市の財政状況は非常に厳しいものがある。今後の必要経費を頭に入れながら外部評価をしないと、実情と異なる方向の意見を述べてしまわないか心配である。

市民目線で分かりやすくと常に言われているが、私が市民目線と最も乖離していると思うのが、事務事業の名称である。予算項目とリンクしており、市職

員には理解しやすいものだろうが、やはり市民にとっては分かりにくい。市民への説明責任を果たすというのであれば、この点は重要な懸案事項であると思うため、しっかりと検討してもらいたい。

(委員長)

委員構成の半数が地元の人であり、外部から見ただけでは分からない具体的な地域の話ができるため、現状の委員構成はとても重要であると改めて感じた。また、事務局の説明を聞き、これまでの委員会を振り返ったが、各委員から多様な意見が出ており、本委員会を開催する意義を強く感じた。

各所管において、成果指標を設定するために種々の検討をしているのを感じるのだが、評価シートには事業の目的・ゴールを記載するようになっており、その目的を達成するために、設定した指標が本当に意味のあるものになっているかどうかを考えてもらいたい。数値が取れるから掲載するのではなく、事業の目的・意図にどう貢献するかを十分に検討して設定する必要があるだろう。

また、成果指標が設定しづらい場合には、無理に数値で表現する必要はなく、設定できない理由や数値では表せない効果を記載するなど、次年度以降の改善を期待している。併せて、目標値を設定する場合には、その根拠や理由を明確に示すようにするとよいだろう。

平成の大合併後20年が経過しようとしている。未だに旧自治体間の制度・サービスの格差解消に至っていない。現状のまま、個別に対応している状況が、今年度の外部評価から垣間見られた。この問題は行政評価委員会の枠組みを超えて、より大きなところで議論が必要だと思う。20年も経過するため、そろそろ何とかする時期にきているのではないかと改めて感じた。

(企画振興部長)

今年度は、新たな事務事業評価の仕組み作りということで、評価シートから対象事業まで見直しを行った。評価シートの記載項目については、委員の皆さんから概ね了承を得ることができたと考えている。

行政評価の目的は、市の施策がどのように進んでいて、それらが税金を投じて本当に効果が上がっているのか、市民に説明責任を果たすというところに尽きるのだろう。より多くの市民に行政評価を知ってもらえるよう、引き続き努めてまいりたい。まちづくりにおけるコミュニケーションツールとしての活用や、広報いよしへの掲載など、効果的な手法について検討したい。

設定された成果指標をはじめ、シートの記載内容については二次判定者である所管部長が適切にチェックし、必要に応じて修正させることを徹底していかなければならないと思った。毎週、部長ミーティングを開催しているため、こ

の点についてもしっかりと周知したい。

外部評価に諮る事務事業の選定については、以前より課題を感じていた。市に裁量権がないものや廃止の方向性が既に決まっているものなど、対象から外してもよいものもあるだろう。事業選定の基準や考え方についても、事務局と検討しながら整理したい。

御指摘のとおり、職員によって行政評価への理解や意気込み、考え方などに差があるのは事実である。中には、実施する必要がないと発言するような職員もいる。行政評価を実施する目的や意味をしっかりと説明しながら、市役所内の意識統一を図りたい。

本年度頂いた御意見については、改善できるところから速やかに対応しようと考えている。引き続き、御指導・御助言をお願いしたい。

(4) 次回の日程

(事務局)

日程の前に、今後の予定について簡単に説明する。本日の委員会での意見を取りまとめ、事務局で答申案を作成する。それをもって、委員各位に最終確認を行い、市長への答申とする。

答申を踏まえ、市長、副市長、教育長、部長級職員による経営者会議において、最終判断を行い、議会への報告及び市民への公表を行うこととする。

次回の委員会では、先程説明した最終結果を報告するとともに、今年度の御指摘を基に修正した評価シートについても説明させていただく。当初の案内では、令和7年2月12日（水）開催予定としているが、日程がまだ先のことであるため、改めて日程調整の連絡をさせていただく。